

(田川委員)

- 環境や文化はSDGsの基本であり、DXを含めて生活の基本。環境や文化に配慮することが目的となつてはならず、どのように活用していくか手段として考えていくことが重要
- 今後は、環境・文化・DXなど、観光に必要なSDGsを議論し、将来像を検討することが必要

(星野委員)

- 星野リゾートが行った調査では、直近宿泊時に歯ブラシを持参している人が4割を超えていた。宿泊施設における環境対策は、事業者だけで解決するのではなく、消費者にも協力してもらうことが重要
- サステナビリティ認証は取得自体が重要なのではなく、具体的な数値目標をもった上で環境対策を進められているかが重要

(牧野委員)

- 宿泊施設の環境対策について、都として明確な目標を決めて国内外に都の魅力としてプロモーションしていくことが重要
- 都の文化施設はユニークベニューとして活用できている印象。台湾の事例のように古い街並みを残すためには、個々の観光・文化資源に限らず、エリアで取り組むことが大事

(矢ヶ崎委員)

- 宿泊施設の環境配慮に関する目標を立てるなど、体制を整えた上でロードマップを作成できると良い。MICEに係る取組の効果も大きいいため、MICEのロードマップもセットで打ち出すことが必要
- 文化や環境を全て観光に結び付けるのは難しいため、観光の立ち位置を整理した上で施策を行うことが必要